



PRESS RELEASE
報道関係 各位

2022年12月2日
公益財団法人日本パラスポーツ協会
日本パラリンピック委員会

第74回 人権週間

JPC 森会長 メッセージ

国際パラリンピック委員会(IPC)公認教材『I' mPOSSIBLE』日本版について

12月4日から12月10日は、第74回人権週間です。

また12月10日の世界人権デーに先立ち、本年12月3日には国際パラリンピック委員会が公表した『I' mPOSSIBLE』国際版が5周年を迎えます。

日本パラリンピック委員会(JPC)では、森 和之 会長のメッセージを以下のとおり発表するとともに、人権をテーマとした教育事例を12月5日から9日までの5日間に、日替わりでWEB及びSNSにて紹介致します(別紙参照)。

【JPC 会長メッセージ】

東京2020大会が終わり、1年が経ちました。共生社会を学ぶためのパラリンピック教育は、これからの世代にとって益々重要です。多くの学校でパラリンピック教育を通じて人権を考える機会となることを願っております。

以上

『I' mPOSSIBLE』は、単にパラリンピックを紹介する教材ではなく、パラリンピックを通じて、人権を考え、共生社会の実現を目指すものです。

WEB及びSNSで紹介する特集記事では、本年の公開授業の事例として、活動内容に加えて、先生や生徒の声をより分かりやすく、伝えます。

○公開事業の事例【授業を受けた生徒の声】

「今まではパラリンピックやいろんな競技を観た後も、カッコいいとか凄いとかそういうことはいつも思っていたんですけど、逆に言うとそれよりあまり進展がありませんでした。でも、今回の授業を聞いてパラリンピックには競技のメダルとかそういうこと以上に大事なことがあって、みんなが、障がいがない人もある人もそういうのに関係なく手を取り合って助け合える社会というのを目指しているというのがよくわかったなと思いました。」

<本件に関するお問合せ先>

(公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 企画広報部 黒田・藤沢

E-mail: jpcjpsa-media@parasports.or.jp

別紙

「パラスポーツ」と「人権教育」 人権感覚を育む授業事例

発信内容

	日付	テーマ & 学校名	SNS メッセージ発信者
①	12/5 (月)	「同じように分け隔てなく」 千葉市立稲毛高等学校附属中学校	鈴木 孝幸 氏 水泳/JPC
②	12/6 (火)	「パラリンピアンへの講演を共生社会理解につなげるために」 札幌市立澄川南小学校	河合 純一 氏 JPC 委員長
③	12/7 (水)	「思い込みの罫」 千葉県立白井高等学校	今井 友明 氏 車いすラグビー
④	12/8 (木)	「だれもが自分らしく」 札幌市立上白石小学校	香西 宏昭 氏 車いすバスケットボール
⑤	12/9 (金)	「パラスポーツと人権教育」	マセソン美季 氏 『I' mPOSSIBLE』日本版事務局 プロジェクトマネージャー

活用事例をご紹介するにあたり、リレー方式で上記のメンバーよりメッセージ動画を発信。

Facebook

<https://www.facebook.com/jpcsports>

Twitter

https://twitter.com/paralympic_jpc

Instagram

https://www.instagram.com/paralympic_japan/



SNS 上に掲載されたリンクから、各学校の人権をテーマとした授業の実践事例をご覧ください。

*HP 上にも掲載いたします

『I' mPOSSIBLE』 日本版

指導案、教師用授業ガイド、映像資料、ワークシート等のダウンロード→

<https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible>



JPC OFFICIAL SPONSORS

